

お客様のグローバル化を支える データ連携基盤ご提案事例 — 製造業 —

株式会社セゾン情報システムズ
HULFT事業部 西日本営業部 部長
藤田 篤

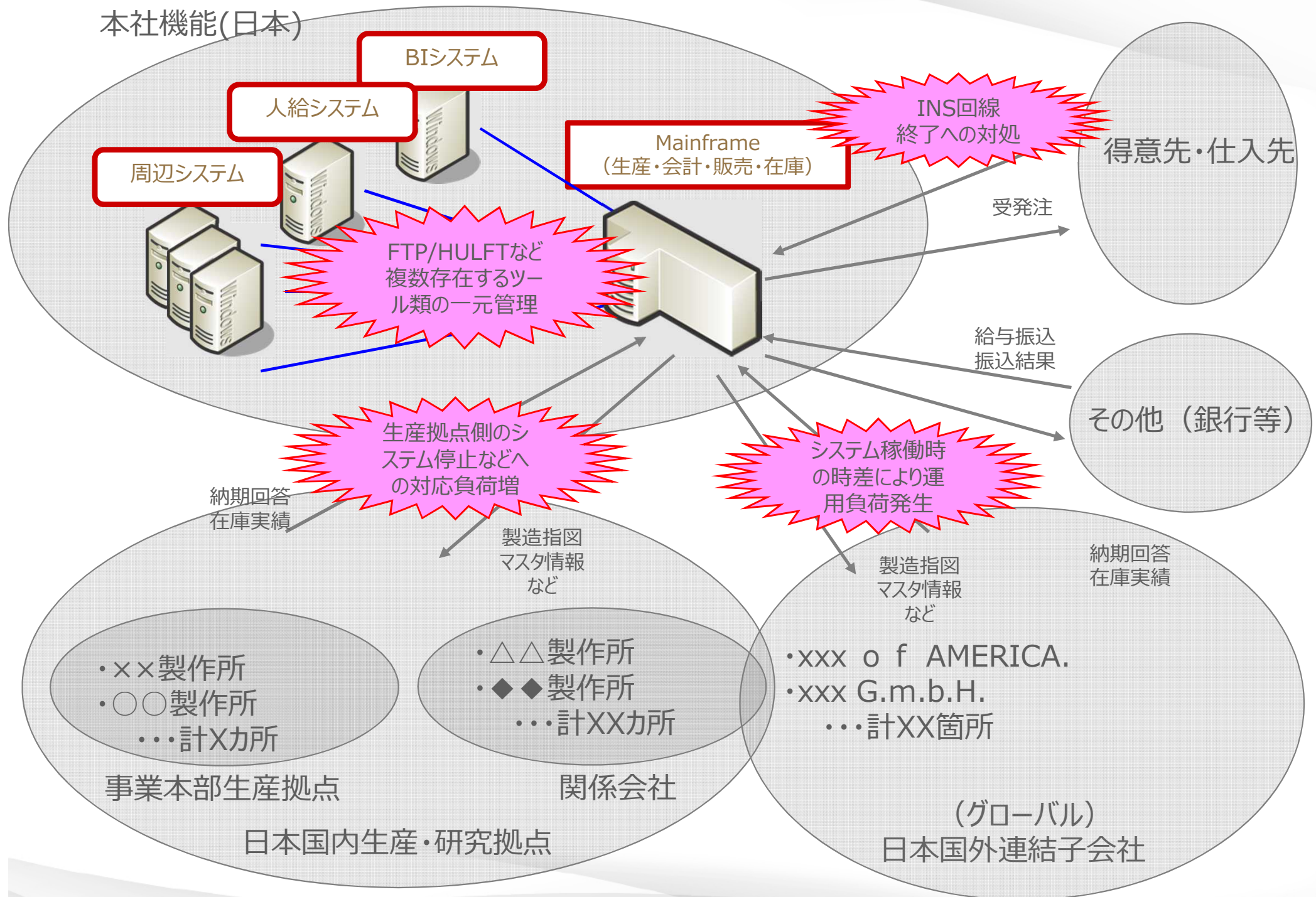
アジェンダ

1. お客様紹介
2. 現行システムの概要と想定課題
3. お客様のグローバル化を支えるデータ連携基盤の
あるべき姿
4. 新データ連携基盤イメージ
5. 最後に

お客様紹介

1. 創業 : 1910年代(大正時代)
2. 本社 : 大阪府大阪市
3. 従業員 : 約2万人(連結)
4. 売上高 : 約1兆円(2016年3月期)
日本 → 40%、米州、欧州、アジア → 各20%
5. 事業内容 : 精密機器商品の製造及び販売
6. ネットワーク : 日本国内生産・研究拠点 → 20ヶ所以上
: 海外生産拠点(連結子会社) → 約40ヶ所
7. 情報システム : 生産・販売・会計・在庫 → 自社開発(M/F)
※ERPパッケージへの移行スタート(2016年～)
人事・BI他 → 各パッケージを利用

【現行システムの概要と想定課題】

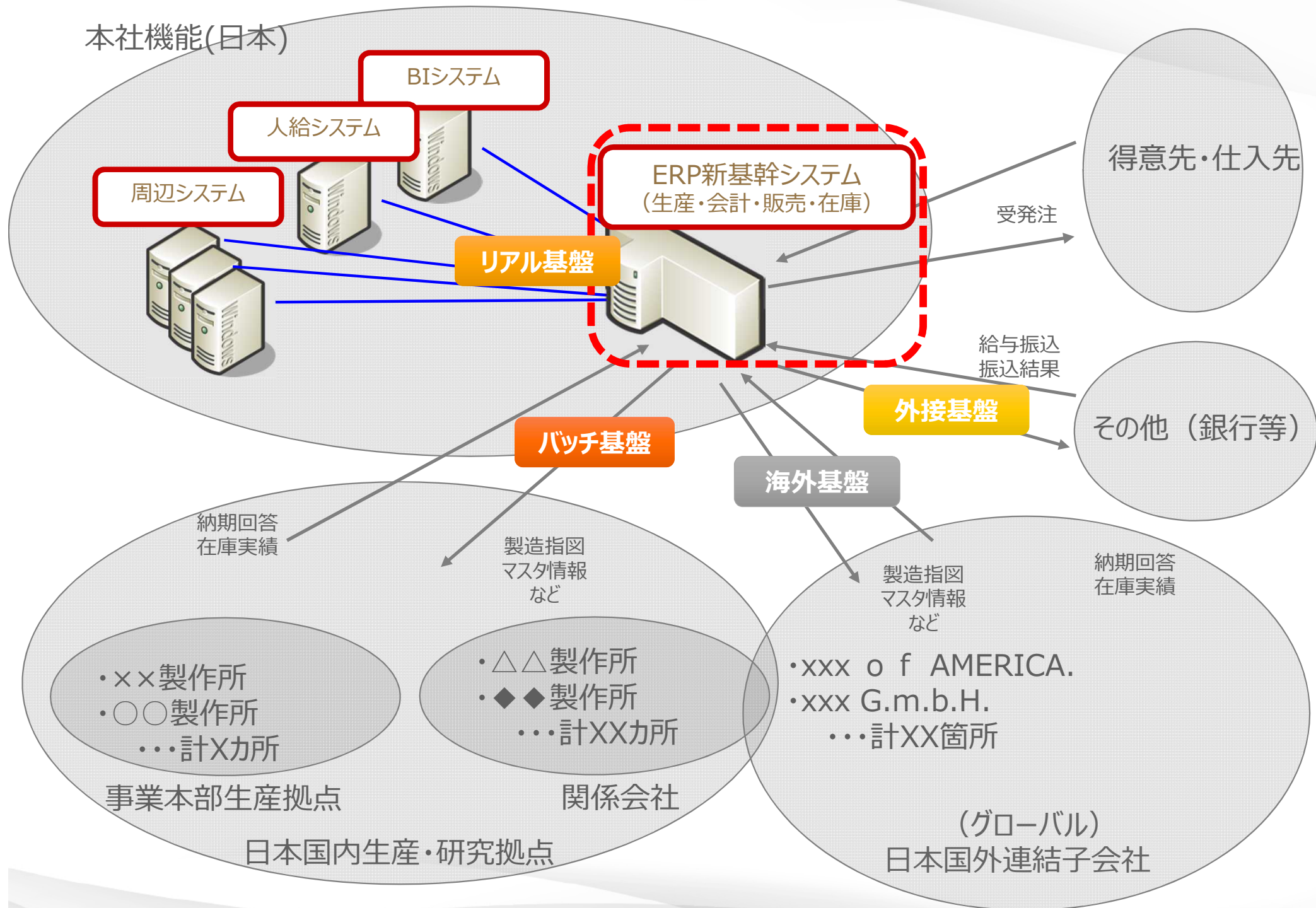


お客様のグローバル化を支える データ連携基盤のあるべき姿



- 1) ビジネスのグローバル化に柔軟に対応できる、運用効率の高いデータ連携基盤であること
- 2) データ送受信の効率良い制御手法と証跡を残すことによるセキュリティ統制を考慮したデータ連携基盤であること
- 3) アプリケーション開発を効率化し、コスト削減効果の高いデータ連携基盤であること

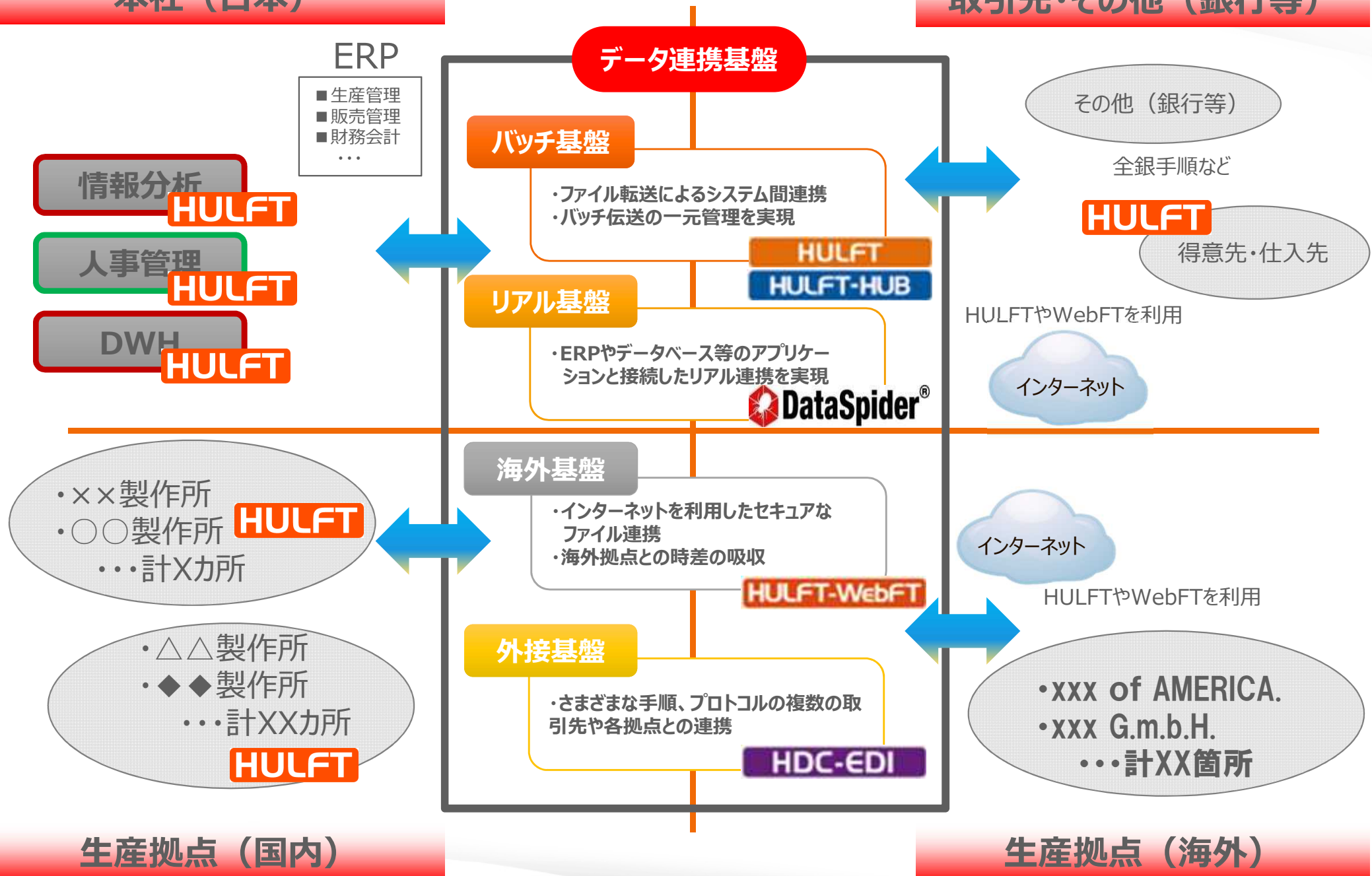
【新データ連携基盤イメージ】



【新データ連携基盤イメージ】

本社（日本）

取引先・その他（銀行等）



【最後に】

- **本日までご紹介した事例はあくまで日本の本社視点**
- **しかしデータそのものは各拠点に散在**
例えば、
 - ◆ **業務系システム**
 - ✓ アクセスするサーバ内 → DB、ファイル(csv、Excel、画像、映像、etc)
 - ✓ ユーザーのPC内 → ファイル(csv、Excel、画像、映像、etc)
 - ◆ **生産設備**
 - ✓ PCL、設備機器、エッジコンピューティング内 → DB、ファイル、etc
- **いくら日本側でシステム基盤を整理しても、
データそのものが素早く利用できなければ意味がない**
【例】決算データの作成に1月、送付に1週間かかるところがある

**ASEANパートナーの皆様と共に、弊社HULFT Pte、セゾン情報システムズが
協力してASEAN地域のお客様の業務負担を軽減！**

HULFT

つながる価値、ひろがる未来。

THANK
YOU

www.hulft.com